



桔梗ヶ原神社は創建百周年を迎えます



桔梗ヶ原神社は本年、創建百周年という記念すべき佳節を迎えます。これもひとえに区民の皆様の篤いご信仰と温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。百年の間、皆様の心の拠りどころとなってきた鎮守の杜の歴史に思いを馳せるとともに、次の世代へと伝統と祈りを継承していく所存であります。創建百周年を記念し、桔梗ヶ原神社では例大祭(10月3、4日)において、奉納クラシックコンサート、和太鼓演奏を開催致します。

イベント1

奉納クラシックコンサート

日時：10月3日(土) 17時

場所：拝殿～境内にて開催 鑑賞無料

演奏：アンサンブルセバスチャン

酒井和彦 木内栄 平波智映 金子響 倉澤郁文



(曲目)

モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章
バッハ ヴァイオリンのための協奏曲 第一楽章
ブッチーニ 私のお父さん
スタジオジブリ作品のメロディー
日本のメロディー 川の流れのように
など10曲ほどを予定。曲目変更の場合あり

イベント2

奉納和太鼓

日時：10月4日(日) 11時45分

場所：拝殿前～境内にて開催 鑑賞無料

演奏：信州塩尻阿禮太鼓



(曲目)

創建百周年記念
信州塩尻阿禮太鼓スペシャルプログラム
昨年も好評だった信州塩尻阿禮太鼓が、創建百周年を祝う迫力の演奏を繰り広げます

神社協力金のお願い

例年どおり、神社の協力金をお願い致します。8月中に伺います。詳しくは回覧・全戸配布する通知をご覧ください。ご協力いただいた皆様には、年末に産土大神御神札をお渡しします。

創建百周年を迎える桔梗ヶ原神社の歴史

桔梗ヶ原神社の縁起

江戸時代より、桔梗ヶ原には妖白狐の玄蕃之丞が棲みついでおり、様々ないたずらの言い伝えが流布していました。明治 10 (1877) 年頃に入植者の田中勘次郎氏が、浅野氏ら友人・地元有志と玄蕃稲荷社を創立したとされますが、洞口浅之助という老人が祠を作ったという説もあります。

明治 35 (1902) 年に塩尻駅が開設されて篠ノ井線が開通し、4 年後には中央東線が開通して諏訪方面との交通が便利になり、諏訪・伊那方面からの移住者が増えました。

大正 12 (1923) 年、平出・床尾に分かれていた桔梗ヶ原は、それぞれの区から離脱して宗賀村桔梗ヶ原区が生まれます。大正 15 (1926) 年、区の産土神(うぶすなかみ=土地神)として諏訪からの移住者を中心に桔梗ヶ原神社を創建し、玄蕃稲荷社が遷座して境内内社となります。祭神は諏訪大社と同じく天照大神・建御名方命・大国主命。祭りは春と秋に行われ、人々が酒と肴を持ち寄って境内で祝いました。

桔梗ヶ原神社年表

明治期	有志により、玄蕃稲荷社が創建される
大正初期	玄蕃稲荷を祀っていた用地を平出区から買い受ける。 林七六(岡谷豊島屋/不在地主)より、原野を神社用地として譲り受ける
大正15(1926)年	桔梗ヶ原神社創建 当時の住人は70戸程度
昭和20(1945)年	境内に謝恩碑を建立し、土地を寄進した林七六へ謝意を示す
昭和50(1975)年頃	玄蕃稲荷社の祠、台座を造る 天満宮を建立し、菅原道真を祀る
昭和52(1977)年	規約制定 10月第一日曜日に例大祭を開催することが区総会で決まり、子ども神輿が始まる
昭和60(1985)年	拝殿屋根工事
平成25(2013)年	駅前より『親子きつねのモニュメント』を移転
令和 8 (2026)年	桔梗ヶ原神社創建百周年を迎える



鳥居は玄蕃稲荷社のために小井戸地区から譲り受けたと伝わる



境内にある謝恩碑は昭和20(1945)年という激動の年に建てられた



初めての子ども神輿。神輿は樽を使った手作りものものだった



現在の玄蕃稲荷社。祠と台座の造営には阿部国治氏らが尽力した

神社創建の背景～桔梗ヶ原開拓史

桔梗ヶ原は水が乏しかったため原野のままで、南北朝の戦乱や武田信玄と小笠原氏の古戦場としてのみ知られていました。明治 2 (1869) 年、平出の田中勘次郎氏が入植しましたが、25mも井戸を掘らなければ水が出ないという有り様でした。勘次郎氏と長男は北海道に去りましたが、三男の安市氏は残って耕作を続けました。

桔梗ヶ原のブドウの歴史は里山辺の豊島理喜治氏に始まりました。豊島氏は欧州からのワイン輸入の急増に注目し、桔梗ヶ原でブドウ栽培と醸造を始め、明治 36 (1903) 年に有志と信濃殖産株式会社を創立します。明治 40 (1907) 年、会社は解散しますが、桔梗ヶ原にブドウ栽培が広まっていきました。

この頃は主に生食用のブドウが栽培されましたが、明治 43 (1910) 年秋、台風が松本平を襲い多くのブドウが落果しました。小泉八百蔵氏はこの落果ブドウを集めて醸造しましたが、販売の結果は良かったようです。翌年、中央西線が開通すると生食用ブドウは名占屋方面に盛んに出荷され、大正時代になると葡萄の暴落もあり桑畑がブドウ園に代わります。

小泉氏は大正 7 (1918) 年頃、醸造設備を花岡福夫氏に売却して諏訪に帰りましたが、花岡氏は盛んに醸造を行います。第一次世界大戦の影響もあり、醸造酒は高値で取引されました。

本格的なブドウ栽培とワイン製造は、明治末頃に諏訪から移住してきた林五一氏が、雇用労働による大規模ブドウ園経営を始めてからのこととなります。



天満宮建立には松野常夫氏らが尽力。受験期には参拝者が絶えない



玄蕃之丞伝説を想起させる『親子きつねのモニュメント』像

企業様からの神社創建百周年寄附金もお待ちしております